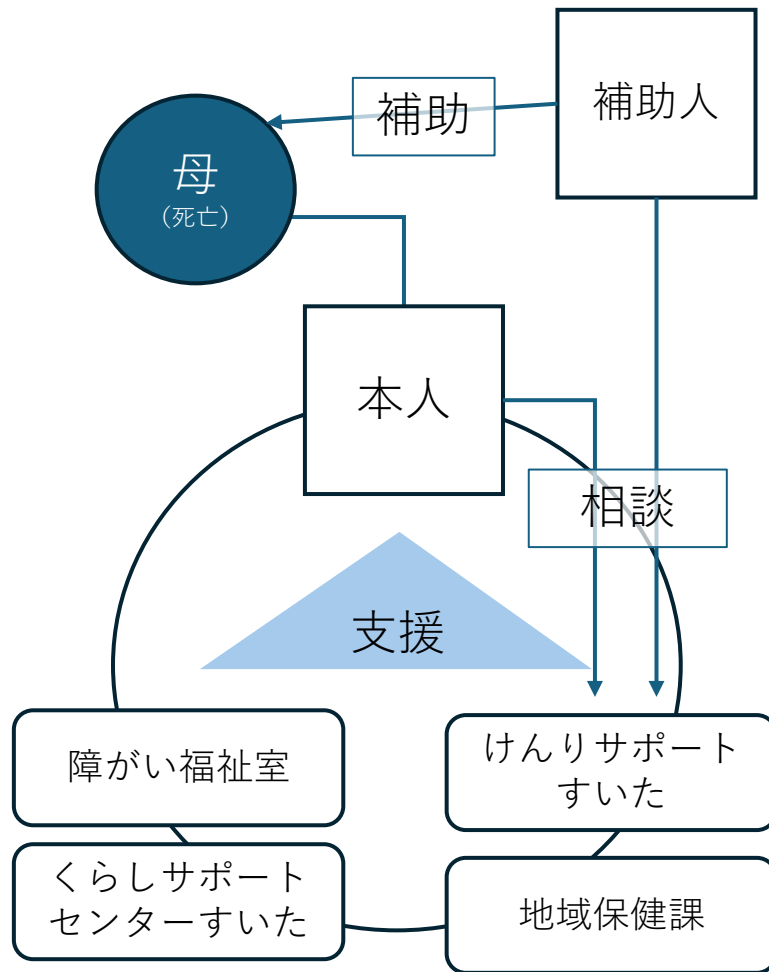




- ・本人は、自閉症スペクトラム障がい、40代男性、独居。住まいは一軒屋で、母の名義。
- ・障がい福祉室、地域保健課も関わりを続けているケース。
- ・本人のこだわりもあり、ひとりで決めることが難しいが、助言すると他責的になる。
- ・また、こだわりが強くあり、民間のサービス事業者等にもつながっていない。
- ・元々は、母の補助人である司法書士との関係について、本人から当センターに相談があった。
- ・母が亡くなり、補助人からも死後事務に関わって、当センターに相談があった。
- ・本人は、隣人とのトラブルや、経済的に困窮してきていることに困っている。
- ・経済的な困窮については、「くらしサポートセンターすいた」も関わり始める。
- ・本人と支援者が専門相談を利用。成年後見制度の利用の可能性や、生活保護受給の可能性について検討。
- ・センターには毎日複数回、本人から電話があるが、一定の距離を保ちながら対応。
- ・関係機関と連携しつつ、本人の生活状況を確認。成年後見制度の利用も含め、困りごとに対しての選択肢の提示をしている。